

「第3次野洲市子どもの読書活動推進計画」の実現のための取組

分野 項目	家庭	地域	学校・園
	目標		
2021	・野洲市PTA連絡協議会を通じ、家庭での読書活動推進の取組を計画していただくよう働きかける。【生涯学習スポーツ課】	・ボランティアの技術向上のための研修会を実施する。【図書館】	・身近に本を手にとることができる読書環境に必要な図書館ボランティアグループを各学校に配置する。 ・児童会、生徒会活動として学校図書館の利用促進、読書活動の推進を図る。【学校教育課】 ・絵本等の整備・充実を継続し、本とふれあう時間が持てるよう絵本の貸出を行う。【こども課】
	・新型コロナウイルス感染防止対策のため、乳幼児健診の場でのブックスタートが実施できない状況のなか、引換券の配布により来館を促してブックスタートを行うなど、工夫をこらして事業を継続している。【図書館】 ・園の絵本貸出により親子の読み聞かせの時間の確保。園からのおすすめの絵本の紹介等啓発紙による読書活動への理解促進。【こども課】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、会議の開催方法が変更になるなど、野洲市PTA連絡協議会への働きかけ・周知が困難であった。【生涯学習スポーツ課】	・ボランティアを含む地域の人々を対象とした絵本を知るための講演会を1回実施。 ・ボランティア向けに学校図書館や地域文庫用の本にビニールカバーをかける技術の研修「ブックカー講座」を実施。【図書館】 ・感染拡大で回数は減ったが、ボランティアによる読み聞かせの会の実施。【こども課】	・学校図書館担当教員（司書教諭免許保持者）や図書館ボランティアが協力して、蔵書の整理、書架の整理整頓を行い、児童生徒にとって親しみやすい学校図書館をつくってきた。 ・また、希望する学校には、滋賀県立図書館が行う学校図書館支援事業と連携し、蔵書の効果的な配置や管理が行えるように支援した。【学校教育課】 ・小学校向け学級文庫用図書のセットを市内全小学校の全クラス（特別支援学級含む）へ設置、循環させる事業を実施。 ・幼保向け配本サービスを見直し、セット内容を刷新予定のほか、幼保向けの団体貸出サービスを拡充し、より細やかに要望に応じることができ体制を作る。（3月末までに）【図書館】 ・市内全園での園所有絵本の貸出実施。 ・計画的な絵本の増冊により一人当たりの蔵書数が増加。 ・図書館の配本サービスの利用により図書環境が充実。【こども課】

2022	目 標	・4か月健診時に実施しているブックスタート事業を継続し、家庭における読書活動を推進する。 ・幼児期の健診時や市の広報誌などを活用して読書活動への関心を高める。【図書館】 ・絵本貸出や啓発紙等による読書活動への理解促進の取り組みを更に継続する。【こども課】 ・親子の読み聞かせなどの大切さが伝わるよう、各窓口で働きかけ、柔軟に対応していく。【生涯学習スポーツ課】	・コミュニティーセンターへの聞き取り調査を行い、地域の要望を把握し、地域に対する図書館サービスの拡充につなげる。【図書館】 ・ボランティアの活動推進による読み聞かせの会等の実施を各園に拡大する。【こども課】 ・読書ボランティア育成等にかかる情報提供・共有を継続する。【生涯学習スポーツ課】	・身近に本を手にとることができる読書環境に必要な図書館ボランティアグループを各学校に配置する。 ・児童会、生徒会活動として学校図書館の利用促進、読書活動の推進を図る。 ・市内各校の取り組みを全校で共有し、より良い取り組みを拡充できるようにする。【学校教育課】 ・昨年度より開始している小学校向け学級文庫用図書セットの全小学校全クラスへの設置と巡回について、アンケートを実施し、それをもとに改善を行う。また、中学校に対しても同様に、中学校向けの図書セットの全中学校全クラスへの設置と巡回の事業を実施する。 ・本に親しむ機会をつくるため、多様な子どもの本の整備・充実を図る。【図書館】 ・毎週の絵本貸出に加えて長期休業中等の貸出の推進。 ・計画的継続的な蔵書数の増冊。 ・家庭や地域に向けた啓発紙等の継続発行。 ・教諭・保育士の研修推進。【こども課】 ・各課との連携・情報共有を積極的にサポートし、取組の中間見直しを行う。【生涯学習スポーツ課】
2022	取 組 実 績	・ブックスタート事業を実施した。 ・子ども向けの図書館だよりを毎月作成。【図書館】 ・絵本貸出や啓発紙等によるおすすめ絵本の紹介等を実施したが今後も啓発の仕方を工夫し、読書活動への理解促進の取り組みを更に継続する。 ・人権絵本や人権に関わる本の貸出を各園で実施した。【こども課】 ・オンライン併用型など、PTAの各種研修会の開催方法の変更があり、事業実施形態に合わせて読書活動について働きかけることに課題が残った。【生涯学習スポーツ課】	・コミュニティーセンターへの訪問調査を実施。図書館から遠い地域での図書館サービスのあり方を検討した。【図書館】 ・地域、保護者会、PTA等協力により、各園でもサークルや有志ボランティアによるお話会や読み聞かせの会の活動が広がってきた。コロナ禍で実施が難しかったが、中学生ボランティアによる読み聞かせ活動が3園に増えた。(コロナ禍で中止もあり) ・読み聞かせだけでなく、絵本修理等にもボランティアの協力が得られた。【こども課】	・子どもの身近に本がある環境をつくるため、小中学校で各クラスに本を設置する「としょかんBOX」事業を実施。小学校の巡回回数を増加するなど、改善しながら継続した。幼保では、巡回の絵本セットの更新に加えて、季節の絵本など特定テーマについての絵本の提供など、園の細やかな要望に応えられるしくみを開始した。【図書館】 ・毎週の貸出に加えて長期休業中等の貸出も全園で実施した。計画的継続的な増冊により各園共に一人当たりの蔵書数が増加した。家庭への啓発は図書だよりや園だよりを通して実施できたが地域への啓発が十分にできていない。 ・お話遊びを中心とした研修は実施できたが、読み聞かせや絵本選定等に関する研修等が今年度はできなかった。【こども課】 ・令和5年度から本格運用を始める、学校図書館の蔵書管理・貸出業務の電子化に係る準備作業（システムの導入、機器の整備、バーコード貼り付け）を順次進めることができた。 ・司書教諭の研修成果や子どもの読書活動に関する調査結果を小中学校で共有した。【学校教育課】

	中間整理（現状の把握・課題の整理）に	・新型コロナ対応により、乳幼児健診等の会場で職員が入れない状況が続いている。従来の取組みを見直して工夫していくことが必要。【図書館】 ・絵本貸出は行なっているが、家庭でどのように活用できているかは様々であり、家庭での絵本の読み聞かせの実態の把握に努める必要がある。【こども課】 ・読書を通じた家庭内でのコミュニケーションを図る一環として、読み聞かせをテーマとしたイベントを企画し、各種団体への参加呼びかけを行う。【生涯学習課】	・令和5年度から野洲駅に予約本受取ボックスとブックポストを設置予定。図書館まで来館できない人や開館時間内に来館できない人も利用できるようになる。サービスポイントが一つ増えたことにより、今後の図書館サービスのあり方についても検討を行う。【図書館】 ・ボランティアによるお話し会や読み聞かせの会の開催を継続していく。（中学生ボランティアとの連携）【こども課】 ・関係各課の協力を得ながら、読み聞かせボランティア団体や図書整理ボランティア団体の交流と学びの場を提供する。【生涯学習課】	・学校図書館にシステムが導入され、学校司書配置についても検討される状況になった。学校図書館のよりよい環境整備に向けて、公共図書館も協力して検討を進めていくことが必要。【図書館】 ・各園の計画的な増冊は出来ているが、園ごとの一人当たりの蔵書数に差異があるため、園児数に応じた蔵書数になるようにできるだけ是正していく。 ・家庭への啓発を継続するとともに地域だより等で地域へも取組について啓発していく【こども課】 ・学校図書館の利用をさらに促進するために、円滑な蔵書検索ができるようにするとともに、貸出状況や利用頻度の高い分野の把握等、各種データを学習にいかせるようにする。【学校教育課】 ・学校図書館及び園の図書環境の整備を支援することを目的として、各所属の協力を得ながら市内図書ボランティアが図書整理について学び、各団体に持ち帰ることができる交流研修会を企画する。【生涯学習課】
2023	取組み実績	・図書館に来館してもらう形式でのブックスタート事業を継続。実施率を上げるため、10か月健診時にも案内の用紙を配布し、一定の効果はあった。健康推進課と協議し、令和6年度からは健診会場での実施に戻す予定。【図書館】 ・毎週の絵本貸し出しや啓発紙により、読み聞かせの促進につなげてきた。家庭により読み聞かせの状況は様々であるため、今後啓発紙の内容の検討も必要であると考え。【こども課】 ・各種の取組を、学校を通じて家庭へ情報提供した。今後もボランティアの交流の場を設けることを継続して行いたい。【生涯学習課】	・野洲駅に予約本受取ボックスとブックポストを設置したことにより、今まで来館できなかった人も図書館資料を利用できるようになり、アンケートでも高評価だった。6月から始めたアル・プラザ野洲での移動図書館事業でも、新規利用者を開拓できた。【図書館】 ・保護者、地域、中学生のボランティアによる読み聞かせを実施してきた。ボランティアによる読み聞かせは子どもが絵本に親しみを持つきっかけの一つとなっているため、今後も継続していきたい。【こども課】 ・生涯学習カレッジにおいて、読書ボランティア等の活動を通じた地域とのかかわりをテーマにした講演を行った。読み聞かせの実演もあり、参加者にも大変好評であった。今後も読書と地域をテーマとした講演を行いたい。【生涯学習課】	・学校図書館システム導入にともない、司書1名が学校教育課兼務となり、システムの操作説明や学校図書館整備の支援を行った。今後の支援や、学校司書の配置について検討が必要。【図書館】 ・計画的な増冊を進めてきたことで、一人当たりの蔵書冊数が増加した。絵本室の環境整備をしたことで子どもが絵本に興味を持つことができた。【こども課】 ・令和5年度より、学校図書館の蔵書管理・貸出業務の電子化システムの本格運用を開始した。それに伴い、担当者への操作説明研修会や学校、児童生徒への周知を行った。 ・今年度野洲図書館職員が学校図書館支援員として、各学校を巡回し、電子化システムのサポートや新刊の選書・発注・受入を行った。また、祇王小学校をモデル校とし、図書館整備に携わった。【学校教育課】 ・読書ボランティア研修会を開催し、地域で学校図書館ボランティアをしている人に向けて、司書より学校図書館の整備に関するデジタルシステムの説明や交流などを行った。他校の読書ボランティアとの交流をする機会となった。【生涯学習課】

第3次計画の取組の成果と課題を検証する。

第3次計画の取組み実績

・新型コロナウイルス感染症対策で中止していた乳幼児健診会場でのブックスタートを今年度より再開。健診会場で実施することで、絵本の配布率も上がり、多くの保護者に読み聞かせの大切さを伝えることができた。

【図書館】

・家庭での読み聞かせの機会を確保できるよう、絵本貸し出しを継続し、週1回および夏季休業中に実施した。

・啓発紙を発行し、おすすめの絵本を紹介したり、親子で触れ合いながら読み聞かせすることの大切さ、読み聞かせによりどのような力が育つのかなどを発信してきた。【こども課】

・家庭への働きかけを行う機会は少なかったものの、PTAや学校を通しての情報提供を行った。

【生涯学習課】

・図書館への来館が難しい人でも図書館資料を利用できるしくみとして、野洲駅の予約本受取ボックスとアル・プラザ野洲での移動図書館事業を継続。【図書館】

・保護者サークルやボランティアによる読み聞かせを実施し、子どもたちが絵本に親しみをもつきっかけとなった。

・子育て支援事業において親子で絵本や紙芝居を見る機会を作る園や、地域学校協働活動として地域ボランティアの方に読み聞かせをしてもらう園が増加し、地域の協力を得ながら取り組みを進めてきた。

・高校生就業体験時の読み聞かせ、中学生による読み聞かせ、小学校図書委員による読み聞かせ等、いろいろな校種との交流を通し、読み聞かせの機会が広がった。【こども課】

・学校外の地域で活動していたり、興味を持っている人も参加できる生涯学習カレッジや読書ボランティア交流研修会を開催した。【生涯学習課】

・子どもの身近に本がある環境をつくるため、小中学校で各クラスに本を設置する「としょかんBOX」事業を継続。幼保では、読み聞かせ用絵本配本サービスを希望する園が増え、今年度は計21園・施設に配本した。また、学務課兼務の司書が学校図書館支援員として、学校図書館整備の支援を行った。【図書館】

・季節や子どもの興味関心、発達段階に応じた絵本がいつでも見られるよう、絵本室や保育室内の絵本コーナーの環境整備を行った。また、絵本の修理や整理、配置の工夫、図書館の配本サービスの利用等、図書環境の充実を図ってきた。

・計画的に図書を購入し、園児一人当たりの蔵書冊数は目標値（15冊/人）に達した。【こども課】

・図書館司書が学校司書として兼務し、学校の読書活動のサポートや授業支援等の活動を行った結果、モデル校である祇王小学校では子どもの読書意欲向上に一定の効果が見られた。

・図書館蔵書数は十分な予算措置ができず充実が図れていない。

・家庭での読書習慣促進については課題が残る。

・今後は、祇王小学校での成功事例を参考に、他の小学校にも図書館司書のサポートを拡大し、読書イベントの充実、デジタルツール活用など、多角的な取組を強化することで、読書活動の更なる推進を目指していく。【学務課】

・読書ボランティア研修会を開催し、前年度は学校図書館システム導入の説明等を行っていたところを実際の活動者を講師とした講演を行ったりと、参加者が必要な知識を得たり、興味を持ってもらえたりするような内容で研修を行った。他の読書ボランティア等と交流する時間も多くなり、参加者同士で行う新たな取組へとつながった。

【生涯学習課】

・ブックスタート後の家庭での読み聞かせに対する支援が課題。図書館への来館を促し、お話し会等を通じて読書の楽しさを実感してもらえよう検討をすすめたい。【図書館】

・家庭での読み聞かせの状況や保護者の悩み等の実態を把握し、実態に応じて啓発紙の内容を工夫し、家庭の読み聞かせへの意識向上に努める。また、親子お話し会や、子育て講演会などを開催し、絵本の読み聞かせの重要性について、さらに啓発していく。【こども課】

・家庭と直接関わる機会が少なく、積極的な取組ができなかったことが課題である。今後も地域とあわせて、家庭にも届くような情報提供をしていきたい。【生涯学習課】

・来館が難しい人へのPRの取り組みを継続する。生涯学習出前講座を活用する等、司書が地域に出向いて読書の楽しさを伝えることも必要。【図書館】

・園での取り組みの様子や読み聞かせの意義を地域向けの園通信等で発信し、保護者サークルや地域ボランティアによる読み聞かせ等、園の読書活動への協力を引き続き呼びかけていく。【こども課】

・学校や園を通さない情報提供や研修・交流等の機会をつくることが課題である。今後も生涯学習カレッジ等で交流や研修ができるようにしていきたい。【生涯学習課】

・ブックトーク・お話し会等で読書のきっかけをつくる。また子どもの身近に本がある環境をつくるために、学校・園への支援を継続して行う。将来的には、学校司書と連携して発展的な取り組みが行えるようにしたい。

【図書館】

・引き続き、日々の保育での読み聞かせや絵本にふれる環境構成を大切にする。そのためには保育者の知識や技術の向上が必要であり、職員研修への参加を促し、スキルアップを目指す。

園ごとの一人当たりの蔵書冊数に差異があるため、園児数に応じた蔵書冊数になるよう引き続き、計画的に増冊を図る。【こども課】

《不読率低減に向けた取組》

○小学校では不読率は低く目標を充分達成できているが、勉強や部活動が忙しくなる中学校では不読率が高くなる。中学校の不読率低減のため、生徒の興味関心を引きつける読書イベントや、読書を通じた課題解決型の学習を取り入れるなどの工夫した取組が必要

《読書活動においてボランティア等と協力》

○図書館ボランティア、読書ボランティアや学校応援団等の協力を得ながら学校図書館の充実を図る。

新たな取組の検討

・デジタルコンテンツを活用した読書支援などを検討し、現代の子どもたちのニーズに対応した取組を検討する。

・市図書館と連携し、子ども向けの読書イベントなどを検討する。

【課題】

・小学校では、目標値を大きく達成したものの、中学年の不読率は依然として課題

○中学校の不読率要因の分析

要因として、学習の負担増加、スマートフォンやゲームなどへの関心が高まることに加え、興味関心の変化、読書に対する抵抗感などが理由と考えられる。また、昼休みが15分間しかなく、図書館で過ごしたり、借りたりする余裕がない。

・読書意欲の低い児童への対応

個別指導や読書支援、興味関心に合わせた本の紹介、読書の楽しさを体験できる活動などの取組

・学校図書館の蔵書不足

予算確保、寄付による蔵書の充実、図書館と連携した蔵書充実

・スマホやゲームの影響

スマホやゲーム利用時間に関する指導、読書とメディア利用のバランス

・図書館ボランティアは、活動時間が限られるため、きめ細かな蔵書管理は難しい場面がある。

また、学校司書は、児童生徒の学習を効果的に支援する多様な資料やリソースを提供することができ、学習意欲を高める役割を担うことができ配置のための予算措置が必要。【学務課】

・読書ボランティア交流研修会は好評であったが、年間1回の開催にとどまっているため、引き続き情報提供は行いながら、ニーズがあれば図書館棟と連携して開催回数を増やしていきたい。【生涯学習課】